

誇りあるまちづくりを

大館 講演、パネル討議に90人

地域の誇りとまちづくりについて話し合う「歴史まちづくり2023シビックプライドフォーラム」が4日、大館市の秋田職業能力開発短期大学校で開かれた。良いまちを自らの誇りとする点に関する基調講演や、パネル討議を実施。歴史を引き継ぎ未来を拓くためのまちづくりをどう進めるかについて、活発な意見交換が行われた。



誇りあるまちづくりについて意見交換した
パネル討議（職能短大）

「良いところ探し声に」

市の歴史まちづくり事業の一環。生まれ育った場所に自信と誇りを持ってもらいたいと例年開いている。新型コロナウイルスの影響で開催は4年ぶり。市民やまちづくり関係者など約90人が参加した。基調講演のテーマは「シビックプライド（CP）のあるまちづくり」。東京理科大創域理工学部伊藤香織教授が登壇した。伊藤教授はCPを「ここをより良い場所にするために自分自身が関わっている」という意識を伴う、当事者意識に基づく「自負心」として、良いまちを自らの誇りと

まちと人との関係を築いているものをCPの事例として提示。「まちを言祝（ことほ）ぐ」という観点から札幌市の大通公園の100歳記念パーティーを取り上げた。「市民に愛される公園の100周年を祝ったもの。多くの人が公共空間を身近な存在として受け止めている」と紹介。「まちの問題点を解決するだけでなく、良いところを探して、声に出して形に表して褒める。まちが家族や友人のようになり、それが広がるきっかけになる」と述べた。

講演後は、「CPを育む」というテーマでパネル討議を実施。福島大学の村上早紀子准教授、FMラジオおおだての小山明子代表、大館学び大学の石山拓真代表、地域おこし協力隊で八子公生誕100年事業に携わる濱田菜さんら4人が登壇。講師を交えて意見交換した。

村上准教授は、CPを育む地域公共交通について発表。路線バスの運転手不足など移動手段の維持が全国的に問題となる中、地域の足を将来にどう残すかが課題となっている。支え合い交通など住民が主体となった移動支援事業を紹介しつつ、「自動運転など

手段は何であれ、CPの下で事業を動かして維持する覚悟が重要。こうした思いが地域公共交通を育て、地域を育てる」などと述べた。